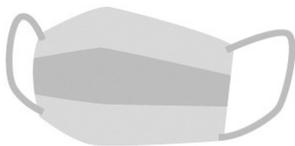


# マスクをご寄附いただきました

株式会社イチワタ様(大字皆野828番地1・代表取締役社長 一和多 富雄 氏)より、不織布マスク9,600枚をご寄附いただきました。

町内に事業所を有する福祉施設・介護施設などへ配布し、有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



## みなの歴史散歩

No.22

### 立沢・門平の虫送り

(県選択無形民俗文化財)

#### と盆行事

社会教育担当 望月 暁

#### 立沢と門平の虫送り

虫送りは穀物などの農作物を荒らす害虫を追い出すために行われる行事です。行列を組み、集落や耕地外へ虫を送ります。町内では立沢と門平で盆の時期に行われており、県選択無形民俗文化財に指定されています。町内の盆行事と虫送りについて見ていきましょう。

#### 盆の送りと虫送りの接点

盆は、特定の時期に精霊を迎え、歓待し、お帰りにたくものです。地獄の釜の口が開くという8月はじめを始まりとし、七夕を経て13日頃に盆棚をつくりまします。盆棚は精霊を迎える棚のことで、いわゆるご先祖さまのみでなく、無縁仏や餓鬼もまつります。迎えた精霊は16日、送り火とともに送られます。虫送りが行われるのはこの後です。虫送りの行事は全国にあ

をさすり、竹につけて送っており、2つの行事が似ていることが分かります。

盆棚がご先祖さまの他に無縁仏や餓鬼をまつることは書きましたが、精霊送りは、これらご先祖さまと区別されたその他の精霊(外精霊)を送るための行事と思われまます。そこには虫の害をもたらす御霊、身体に病気をもたらす悪霊も含まれるでしょう。この意味で虫送りと精霊送りは形だけでなくその本質も同じものと考えられます。

#### 疫病を送る

集落や耕地に害をもたらすものは虫だけではなく、疫病もそうです。台風や日照り(雨乞)、疫病もそうです。時期が決まったものであればよいのですが、疫病のようにいつ生じるか分からないものは、その都度対応がなされました。幕末から明治にかけて、秩父郡やその周辺ではコレラ(こりり病)が流行しますが、当時の日記を読むと、集落単位でフセギ(疫病の神が入ってこられないように)、集落の境にわらじや茅の輪などをかける)を行うとともに、集落内で流行が始まれば、送り

の行事を催していたことが分かります。京都の葵祭(賀茂祭)は平安時代の風俗を残す祭として有名ですが、今年規模を縮小して行われました。テレビのインタビューに対し権禰宜は「葵祭には疫病を鎮めるという意味合いもあり、このような時期だからこそ、必ずやらなければならない」と答えていました。胸を打つ言葉です。



写真：門平の虫送り



写真：立沢の虫送り